

北海道社会福祉協議会

北海道中国帰国者支援・交流センター 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目一番地かでの2・7

電話 011-252-3411 FAX011-252-3412 URL: <http://www.hokkaido-sien-center.jp/> E-mail: hokkaidocenter@dosyakyo.or.jp

新年度が始まりました！

この春、新しく仲間となった所長、そしてこれまで一緒に働いてきた所長からのメッセージを、新たな出会いとこれまでの働きに感謝を込めて、ご紹介します。

着任のごあいさつ

北海道中国帰国者支援・交流センター所長 丸山 隆志



皆さん、はじめまして、4月からセンター所長に就任しました丸山と申します。センターの仕事を担当させていただくのははじめてですが、帰国者の皆さんのお役に立てるよう頑張ります。

皆さんは、老後の生活や健康、介護のこと、仕事や進路のことなど、生活している中で様々な不安や悩み、心配ごとがあると思います。センターでは、皆さんがそれぞれの地域で安心して、楽しく生活できるよう、拠り所として、様々な事業を実施しており、帰国者の皆さんの交流や社会に繋がる場にもなっていますので、より多くの皆さんに事業を利用していただきたいと考えております。私も出来るかぎり日本語学習や文化活動、各種行事等に参加させていただき、皆さんと色々なお話をしたいと思っています。

これからも、センターの事業が少しでも皆さんのお力になり、利用して良かった、参加して良かったと思ってもらえるよう、スタッフとともに寄り添った支援に努めてまいりたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

退任のごあいさつ

北海道中国帰国者支援・交流センター前所長 富田 彰

1年間という短い間でしたが、おかげさまでとても楽しく仕事が出来ました。ありがとうございました。帰国者の皆さんと、毎日センターで「おはようございます」「こんにちは」とご挨拶を交わすことは出来ましたが、挨拶以外にももっと皆さんといろいろとお話しすれば良かったな、というのが所長退任にあたっての心残りです。

皆さんの前で中国語、ロシア語でご挨拶する機会もありましたが、言葉の勉強はとても難しいですね。皆さんの日本語勉強のご苦労がよくわかりました（でも、とても楽しい勉強でもありました）。帰国者の皆さんは、言葉のこと以外にもいろいろとご苦労が多いことと思いますが、どうか日々の生活の中で一つでも多く楽しいことを見つけて、充実した毎日を送っていただけたらと思っています。センターもそのお手伝いができると思います。センターの行事にもぜひ参加してくださいね！！

では、4月からの新しい生活、お互いに頑張っていきましょう（私は4月からもセンターのある建物内にはいますので、見かけたら声をかけてくださいね）。





ながねん きこくしゃ しえん じんりょく こうごういちらう ひ じょうきんそうだんいん さくねん どまつ たいしよく
長年にわたり、帰国者支援に尽力した向後洋一郎非常勤相談員も昨年度末で退職しました。

これまでのねんげつ ら かえ いま おも かた
これまでの年月を振り返り、今の思いを語ってもらいました。



45年余り、帰国者に支えられて

みなさん、お元気でお過ごしですか。私は、3月31日で北海道中国帰国者支援・交流センターの非常勤相談員を退職いたしました。センターの18年間、帰国者の皆さんと関わりを持って45年余り、支援するという立場でありながら、実は多くの皆さんに支えられてきたのだと実感しています。ありがとうございました。

帰国者の皆さんはじめ、日本語講師、身元引受人、自立指導員や、地域の事業所などの理解ある支援者の皆さん、何百人何千人もの方々のお顔が思い浮かびます。ともに帰国者の皆さんの苦難を理解し共感し真摯に向き合い、問題解決に取り組んでできました。帰国者の皆さんへ寄せられたお力に深く感謝するばかりです。

私が帰国者問題と関わったのは、札幌に中国から帰国者が帰り始めた頃です。1978年、私が所属していた北海道日中友好センターで、会の先輩たちが全道の帰国者調査を行い、翌年からボランティアによる日本語教室が開設されました。その後、帰国者の増加とともに、87年に国が設置した北海道中国帰国者孤児定着促進センター、95年開設の北海道中国帰国者自立研修センター等を経て、2007年に北海道中国帰国者支援・交流センターが開設され、今日に至りました。私は、その時その時に場所を与えられ、多くの支援者の皆様に導かれ、ともに力を合わせ支援活動に取り組んでできました。

2008年に始まった国民年金の満額支給とそれを補完する支援給付制度、2014年、苦勞をともにしてきた配偶者への支援金制度の開始で、1世帰国者の大多数が生活保護を脱却し、人間らしい生活を取り戻しました。最も印象に残ることでした。

戦後80年、中国残留日本人の引揚げが始まってから50年余り、帰国者の皆さんは時代を乗り越え逞しく生き抜いてきました。戦争によって引き起こされた家族との別れ、故郷を失い異国の地で生き抜いた帰国者たち、帰国した日本で言葉をはじめ大きなストレスに苦しみました。しかし、今は多くが「戦争は二度と起こしてほしくない」「帰国してよかった」と語ります。私は、その尊厳ある人生を深く尊敬するものです。

帰国者の皆さんと一丸となって開催した秧歌まつりや中国・樺太帰国者交流会は、帰国者の皆さんの力で大いに盛り上がりました。懐かしい思い出です。

今、1世帰国者の高齢化問題は避けられません。支援・交流センターがその居場所づくり、交流の場として役割を果たしてきました。今後の更なる取り組みを期待しています。2、3世帰国者の多くは自立を果たし、社会にその活躍の場を広げています。二つの文化を持ち、そして新たな価値を創造する者として「頑張るしかない」と語り、逞しく毎日を楽しんでいます。見ていだけで嬉しくなります。もちろん、まだまだ問題も存在します。不適応に悩む帰国者たちには心が痛みます。私は、センターは退職しますが、帰国者問題はなお存在し、1世から2、3世へと続いていきます。私も高齢になりましたが、できるところでできる事をしていきたいと望んでいます。

中国帰国者、樺太帰国者の皆さんには、自分らしく生きられる場所で、健康で価値ある楽しい生活を過ごされることを願っています。これまでに寄せられました暖かなご支援に感謝するとともに、皆さまのご多幸をお祈りします。

中国・樺太帰国者を知る集い

3月1日かでの2.7の大会議室にて「中国・樺太帰国者を知る集い」を開催しました。今回は中国帰国者に焦点をあて、配偶者の体験談と語り部による講話に83名が耳を傾けました。

第1部では中国残留邦人1世の配偶者齊藤英芳さんが、言葉も文化もわからない日本に来て、一生懸命に働き、夫が病に倒れた後16年間にわたって介護した体験を語りました。自身も病を抱えながら、できることをしたいと、時折ボランティア活動に従事する英芳さんの姿に「前向きな姿勢がとってもいい」という声が参加者から寄せられました。



残留邦人配偶者の齊藤英芳さん

帰国者の体験と事実を共有する



語り部 吉岡孝行さん

第2部では、中国残留邦人等の体験と労苦を伝える戦後世代の語り部吉岡孝行さんが、「戦争に向き合い、平和を考える」というタイトルで、幼くして家族と生き別れ、中国人の養父母に育てられた池田澄江さんの生涯を語りました。奇跡的に姉たちと再会し、自分の本当の名前を知るまでの紆余曲折と苦しみ、同じような境遇にある中国帰国者への支援に尽力する姿など、とても心を打たれる講話でした。養父母から注がれた愛情、妹を探し続けた姉たちの思いについても語られ、家族の在り方、絆についても考えさせられる内容でした。「残留邦人についてのこのような事実と体験を共有できるのはとても重要なことだ」という意見が聞かれました。

料理交流会・親しんできたそれぞれの味



2月13日東区民センター実習室にて料理交流会を開催しました。帰国者・支援者の皆さん計23名が参加し、肉まんをグループごとに分かれてつくりました。中国帰国者の皆さんは、普段から作り慣れているだけあって、手際よく生地をこねていました。ロシアにもパンセと呼ばれる、よく似た料理があり、中にひき肉とキャベツ、玉ねぎ、にんにくを入れます。樺太帰国者のグループは材料を持参してパンセをつくっていました。中国の肉まんは旨味たっぷり、ロシアのパンセはにんにくと胡椒のアクセントが効いた味に仕上がりました。支援者の皆さんは教わりながら作り、帰国者のうちにしっかりと根付いている食文化を体験するときとなりました。

全身をほぐして、ゆがみを直す



稚内市では2月25日に「健康づくり教室」が開催されました。帰国者・支援者10名が参加して、脚のゆがみを直す体操や歩くときに必要な内ももの筋力トレーニング、脳トレを兼ねたゲームなどを行いました。参加者のみなさんは、少しの体操でも体が軽くなることを実感していました。

「石けんづくり体験教室」

新たなつながり、新たな体験



3月25日には稚内での令和6年度最後の行事となる「石けんづくり体験教室」が開かれました。9名の皆さんが液状ソーブと宝石石けんづくりを体験しました。

宝石石けんとは、宝石のように美しい手作り石けんのことです。色をグラデーションにしたり、ラメを加えたり、カットを施して本物の宝石のように仕上げます。帰国者のみなさんは初めての石けんづくりに楽しく取り組んでいました。

今回の教室は、帰国者が講師をつとめるロシア語教室の生徒さんの紹介で実現しました。またひとつ、地域の中で新たなつながりをつくることができました。

5月・6月・7月の予定

5月12日	健康運動
5月19日	健康運動 (ふまねっと)
5月20日	介護予防運動 (手稲前田)
5月25日	介護予防運動 (もみじ台)
5月26日	健康運動

6月2日	健康運動
6月9日	健康運動
6月10日	介護予防運動 (手稲前田)
6月15日	介護予防運動 (もみじ台)
6月16日	健康運動 (ふまねっと)
6月23日	健康運動
6月30日	健康運動

7月4日	健康運動
7月14日	健康運動 (ふまねっと)
7月15日	介護予防運動 (手稲前田)
7月20日	介護予防運動 (もみじ台)
7月28日	健康運動

編集後記

「しらかば」を作成していると様々な情報や知識と出会い、新たな関心が生まれ、さらに探究したくなってしまうことがあります。肉まんそっくりの料理がロシアにある理由、詳細を調べ尽くすことはできませんが、最終的に帰国者が発生した歴史や人の動きに辿りつくというのは興味深いことでした。